



150th Anniversary

三重県誕生
150周年

過去を教訓に、未来を守る

災害



150周年の歴史を詳しく見る

1944年

昭和東南海地震

地震後に発生した津波による被害が大きく、志摩半島以南熊野灘沿岸の町村では、多くの死者・行方不明者が生じた

1953年

台風第13号

台風の上陸が満潮時刻に重なり高潮が発生するなど、死者・行方不明者のほか多数の家屋被害が生じた

1959年

伊勢湾台風

高潮や堤防決壊によって甚大な被害が発生し、県内全域が災害救助法の適用を受けた。被害総額は当時の金額で約1,800億円
長島町（現在の桑名市）では住民、行政、自衛隊が協力し、高潮被害を防ぐための潮止め工事を実施した

2011年

紀伊半島大水害

記録的な降水量となった県南部（紀勢・東紀州）の市町を中心に、三重県内全域で土砂災害や浸水被害が発生
熊野市、御浜町、紀宝町が災害救助法の適用を受ける
県内外から8,000人近くのボランティアが駆けつけ、ゴミや泥の撤去といった清掃活動などに従事



昭和東南海地震による尾鷲市内の被害の様子(撮影:太田金典)



伊勢湾台風で崩れた家屋



伊勢湾台風で被害を受けた堤防と家屋
(資料提供:国土交通省木曽川下流河川事務所)



紀伊半島大水害 水没した市街地(写真提供:三重テレビ放送株式会社)



紀伊半島大水害 ボランティア活動の様子



紀伊半島大水害 被害の様子

過去を教訓に、未来を守る Learning from the Past to Protect the Future

三重県は、歴史の中で何度も大きな災害に直面してきました。1944年（昭和19年）の昭和東南海地震や1959年（昭和34年）の伊勢湾台風、2011年（平成23年）の紀伊半島大水害などにより、県民の暮らしは大きな被害を受けました。

特に伊勢湾台風では、当時の金額で約1,800億円（現在の価値に換算すると8兆7,000億円規模）の甚大な被害を受け、県内全域が災害救助法の適用を受ける事態となりました。高潮を防ぐために住民や行政、自衛隊が協力して「潮止め」の緊急工事を行い、長島町（現在の桑名市）の全小中学生が伊勢市へ集団避難するなど助け合いの輪が広がりました。

大きな被害が想定される南海トラフ地震等の大規模地震は、いつ起こってもおかしくない状況です。また、気候変動の影響で、台風や線状降水帯などによる風水害のリスクが高まっています。過去の地震や台風で三重県が受けた被害は、自然災害に備えることの重要性を私たちに強く訴えかけています。自らの身の安全は自ら守る「自助」。地域や近所の人々と協力して助け合う「共助」。県をはじめとする防災関係機関が担う「公助」。過去の災害を教訓として、行政だけでなく、一人ひとりが自分の命を自分で守り、地域で支え合うことが、三重県の未来を守ります。



津波避難タワー



総合防災訓練の様子



避難訓練の様子(写真提供:三重テレビ放送株式会社)



避難訓練での要援護者支援の様子

防災アプリ『みえ防災ナビ』

Mie Bosai Navi

三重県では、今後予想される南海トラフ地震などの災害発生に備え、県民の皆さんや県内に旅行に来られる方の避難を支援するための各種防災情報を提供する三重県公式防災アプリ「みえ防災ナビ」を運用しています。
発災時に、ご自身またご家族の命を守るため、多くの方にご活用いただきますようお願いします。

アプリは
こちらから
ダウンロード！



現在地周辺の避難場所や
道順を確認できる！